菅江真澄が愛した男鹿の農業・農村

①男鹿を愛した菅江真澄と柳田国男
②未開の原野に村を拓いた「渡部斧松」
（滝の頭湧水と鳥居長根）
③一ノ目潟…年縞の発見、水の確保と開墾
④男鹿を代表する伝統文化「ナマハゲ」
（発祥の地・真山地区）
⑤男鹿を代表する文化的風景「安全寺地区」

2013語り部交流会inあきた

12:59　一ノ目潟・エメラルドグリーン　1

後世に語り伝えるために…
歩く、見る、聞く、記録する

菅江真澄（1754～1829）

1783年(30歳)・三河(愛知県)発～
1784年・秋田～青森・岩手・宮城・北海道
1801年・秋田(48歳)～1829年仙北郡で没(76歳)
○藩校明徳館献納89冊…国指定重要文化財

■1804年8月14日～9月21日…男鹿の秋風
■1810年3月～1811年2月…男鹿の春風、鈴風、嶋風、寒風
五冊の紀行文は、「男鹿五風」と呼ばれている。

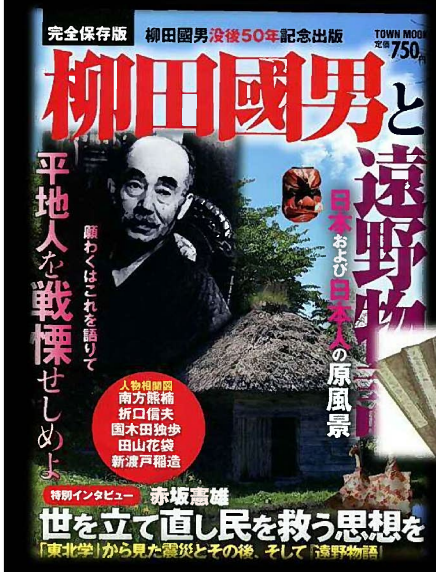
47年の旅のうち秋田約30年間
無文字社会の暮らしと文化を
詳細に記録

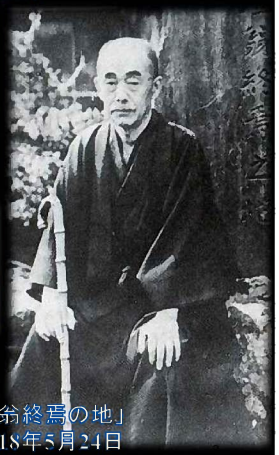
2

菅江真澄と柳田国男

菅江真澄を高く評価したのは、民俗学の創始者・柳田国男であった。

1. 明治末、内閣文庫で真澄遊覧記を読む
2. 大正～昭和、次々と真澄を紹介する文章を発表
3. 昭和2年、「おがさべり・男鹿風景談」
4. 昭和3年、菅江真澄翁百年忌
   「真澄遊覧記を読む」





角館町「菅江真澄翁終焉の地」
記念碑にて　昭和18年5月24日

菅江真澄の道

標柱　83カ所
説明板　8カ所

絵図「天王の浦」の一部拡大図

経世済民の志士
渡部斧松翁生誕の地
1793(寛政5)年12月4日惣十郎長子としてこの地に誕生
建立　2005(平成17)年12月4日
故郷興し　楽生会
能代市桧山新屋敷神社境内記念碑
未開の原野に村を拓いた
渡部斧松
1793年　能代市桧山に生まれる(足軽の長男)
※足軽の身分は低く、副業をしなければ生きていけなかった
1810年　18歳、かじ屋の弟子となる
南部藩や仙北田沢の鉱山で働く
1813年　21歳、鍛冶工場を桧山に開く
12:59
7

二十三歳、大志を抱き江戸へ
百姓から立身出世した根岸奉行の下で修業。
4年後、27歳、桧山にUターン。
船越郡役所・叔父惣治から鳥居長根の開墾の話を聞く。
●1700年代、三名の豪商が開拓を計画するが、水がないためいずれも断念
●秋田藩でも開墾を計画したが、水がなく断念
秋田藩一の開発の専門家・高橋武左衛門でさえ「無理」と判断し着手しなかった原野
新田開発の成否は水の確保
能代市桧山新屋敷集落
12:59
8

水の神様・今木神社
寒風山麓の総湧出量の7割
日当り2万5千トン
滝の頭湧水
寒風山の北東麓に湧き出す名水
三吉神、太平山などの石碑
毎年5月28日、水の恵みに感謝
を捧げる祭典
12:59
9

寒風山
今木神社
12:59
10

真澄が訪れた9年後、1819年、斧松は
「寒風山」帯を調査し、干魃にも涸れたこ
とのない滝の頭を水源に定めた。叔父とと
もに鳥居長根の開墾を藩に出願。
12:59
11

鳥居長根開墾と新村建設
滝の頭湧水
百川
福川
ゴルフ場
片倉
樽沢
鳥居長根(渡部)
渡部
寒風山
浦田
脇本
岩倉
飯森
1821年 29歳、滝の頭より水利工事着手
● 難工事穴堰掘削・・・阿仁鉱山から鉱夫6名動員
285mの尾根を貫く穴堰(隧道)を、半年程で開通。しかし、土質
はほとんど砂質のため、何度も崩れ落ち再三閉塞。
補修中に6名の犠牲者が出るほどの難工事であった。
12:59
12

[redacted]ろか水工
1823年 工事着手から2年後、
滝の頭～樽沢村まで約2kmの水路開通
12:59
13

○ 浄[redacted]勇水～樽沢集落を流れる用水路
12:59

1826年34歳、滝の頭の水源に堤防を築いて水をため導水
・・・温水ため池として築造。
新村は、斧松にちなんで「渡部村」と命名。
戸数30戸余り、146人移住。
水温12℃＜15℃
12:59
15

■新たな村づくり 市場、馬市、備蓄倉、防風林の設置
もめごとが起きないように「村法二十二か条」を定める
①共存共栄、相互扶助の精神が柱
②田んぼの小作、売買の制限
③戸数の制限(150戸)
④風紀、凶作に備えた備蓄
⑤公休日(年間60日余り)
渡部斧松住居跡
12:59
16

資料 渡部斧松が関与した土木事業の地図
1829年 37歳、「開発取り調べ役加勢」に任命
河辺・仙北・平鹿・雄勝・山本・秋田の六郡各地の水利、開拓、河川事業など、秋田藩一の土木事業家として活躍。
①水利・開田事業32ヶ所、開田2,300ha、復田1,700ha
②河川改修事業10ヶ所 治水→災害復旧→復田
12:59
17

晩年斧松は、歴史上初めて「八郎潟琺水計画」をたてる。
彼の夢は、戦後、現実となり、大潟村が誕生した。
12:59
川辺信康写真集「おおがたの記憶」
18

渡部神社
水土を拓いた人びと
北海道から沖縄までわがふるさとの先達
1856年、64歳で病死。
村民は、渡部斧松を神様として祀り、渡部神社を創建
●「水土を拓いた人々」(農業土木学会編)の秋田県代表
秋田の土地改良事業、土木事業の神様として崇拝されている
12:59
19

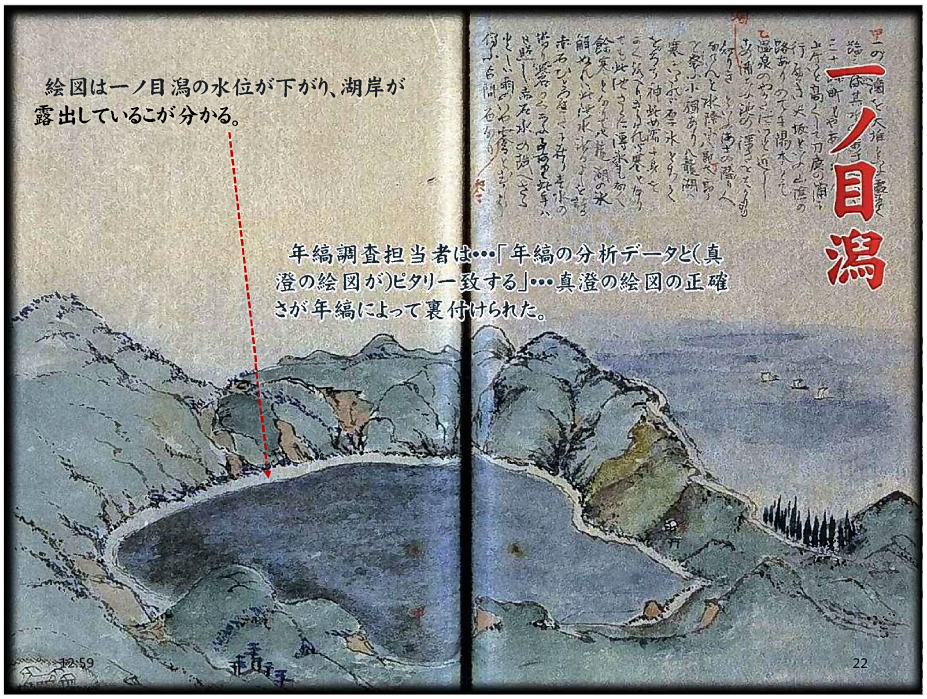
一ノ目潟
八郎太郎の富を祭る祠
占いの赤い石
菅江真澄「男鹿の春風」(1810年)
一ノ目潟を大台という所から望んだ…
湖水の深さは測り知れないといわれ海女でも潜る人はいないという。水際に八郎太郎を祭る小さな祠がある。寒に入ると厚い氷で覆われるので、八郎太郎はこの一ノ目潟に隠れたといわれる…
12:59
20

①2006年に「年縞」発見。今年の春の調査で年縞の深さが国内最大の60mに達することが判明
②年縞とは、土の樹木年輪。
③年縞を分析すれば、気候変動や自然環境の歴史が5～6万年にわたって詳細に復元できる→今後に期待

●真澄の絵図と年縞分析結果
1810年頃の男鹿は年平均気温が2度低く、降水量が少なかったことが判明

2013年7月28日秋田さきがけ

12:59 21



12:59 22

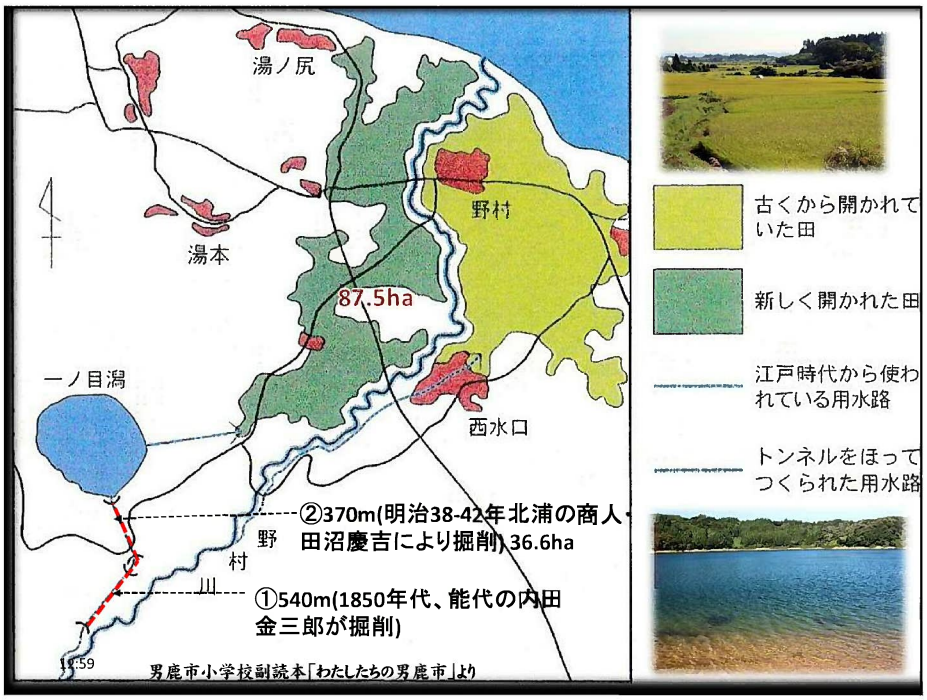
水の神様「龍神様」の好物、卵を10個一ノ目潟に投げ入れる戸嶋理事長
この龍神様は、「八郎太郎」ではないか

12:59 23

菅江真澄…1810年春、男鹿の春風

安全寺から北浦へ
『寝地蔵という碑があった。雨乞いの時、これを立てて田の泥を塗るという。その汚れを清めようというので雨が降るのだという。』
…いかに水に苦労してきたかが伺える。真澄が訪れた五十年後に一ノ目潟のトンネル掘削が行われ、新たな水の確保と新田開発が行われた。

12:59 24


湯ノ尻
湯本
野村
87.5ha
一ノ目潟
西水口
②370m(明治38-42年北浦の商人・田沼慶吉により掘削)36.6ha
野村
①540m(1850年代、能代の内田金三郎が掘削)
男鹿市小学校副読本「わたしたちの男鹿市」より
古くから開かれていた田
新しく開かれた田
江戸時代から使われている用水路
トンネルをほってつくられた用水路

江戸、明治期に掘られたトンネル・・・高さ1.5m、幅1mの手掘りで、苦労がしのばれる
風化による崩落・堆積状況
取水に支障をきたす
崩落
大正元年に補修された跡
■ ため池等整備事業で改修　平成16年度～27年度
■ 延長910m、総事業費11億6，800万円。
12:59
26

江戸、明治の水路修復
男鹿市・一ノ目潟
2 トンネル本 掘削終え説明会
2013年9月5日 秋田さきがけ
一ノ目潟農業用水取水口
江戸、明治、今回の改修も含めて、水に苦労してきた歴史を後世に語り伝えてほしい
27

かん水
足踏み水車で一日中田へ水を注ぎこむ。秋田地方は梅雨期が少ないので、水番小屋を建て、あるいは畦を枕に、夜も眠らず水番をする。日照りが続くと、さうそく雨乞いが始まり、昔は激しい水争いが常に繰り返された。従って、かんがい工事には多くの費用と労力を惜しまない。(南秋・金足)
昭和18年発刊
柳田国男、写真家・三木清共著
「雪国の民俗」
脇本のナマハゲ

男鹿を代表する伝統文化
ナマハゲ
菅江真澄「男鹿の寒風（1810年）」
真山神社のナマハゲ柴灯祭り
真山のナマハゲには角がない
山伏、先祖の神をイメージ
12:59
29

二百年前のなまはげ
①豆や野菜、稲穂を下げたしめ縄
五穀豊穣
②赤い鬼の仮面、ケラミノ
草を黒染めした髪を振り乱す
④ほっかぶりをした女性か？
③青い鬼の仮面
手に小刀
②音の鳴る小箱
④ナマハゲ餅二つ
③ハバキ、雪ぐつ
⑤ツイタテの陰に隠れ、子供は声もたてず、母にすがりつく
ワラ靴
菅江真澄がかたなまはげ
文化八年(1811) 真澄が宮沢地区で
なまはげを見てかいた絵(模写)と文
正月十五日夕暮れ深く、灯をともして
炉のしとに、みんながくるま座になって
いるとき、突然なまはげがはいってきた。
角が高い、丹塗りなどの仮面を被り、
黒く染めた海苔の髪をふり乱しけうと
いうものを着て、何かはいっているのかから
からと鳴る箱をひとつ背負い、手には
小刀を持って、「わわ」といいながら所意
にきた。「それ生身剥ぎだ」と口ぶくり
して声もたてず、人にすがりつき、物の
陰にかくれる。
これに餅を与えると、「わわ、こわいぞ、
近くな」などとおどすのである。……
菅江真澄遊覧記5,(平凡社)
12:59
30

万体仏の「田ノ神」

ナマハゲの郷・真山地区の農村風景

ナマハゲは鬼ではなく、来年も豊作・豊漁・吉事をもたらす神

12:59　31

菅江真澄…1810年春、男鹿の春風

案内人と真山に登る

「真山に鹿ばかりはたいそう多くすんで、田畑のものを食いやぶるというので、秋になると田ごとに縄網を張り巡らすが、女鹿は網の目をくぐって稲を食うと、窮内人はうれい顔で語った。それで男鹿(牡鹿)と地名がつけられたのであろうと思った。」

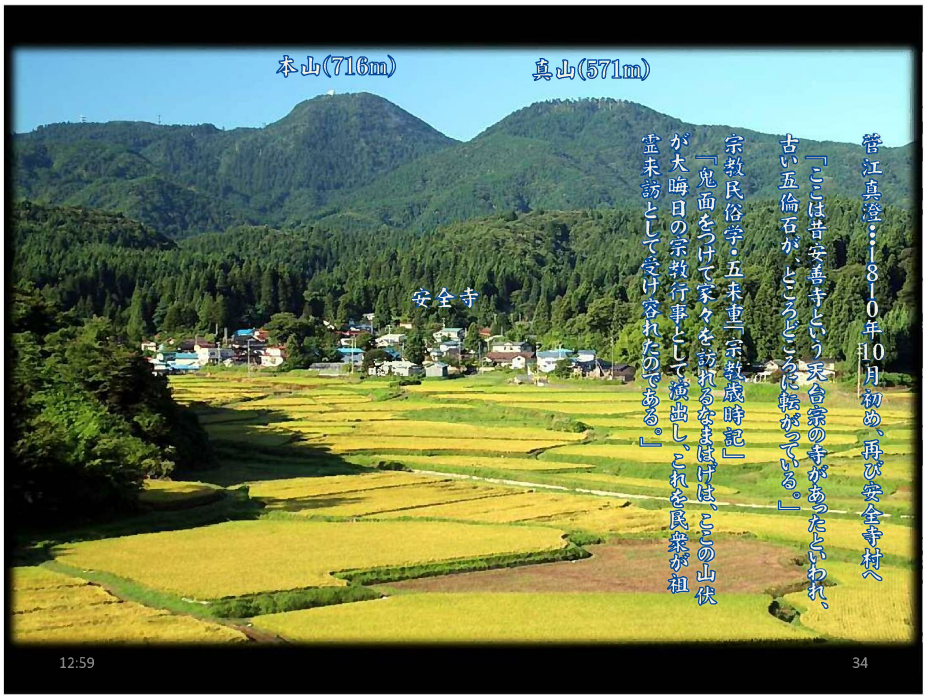
…増え過ぎた鹿の害に悩まされていたことが分かる。

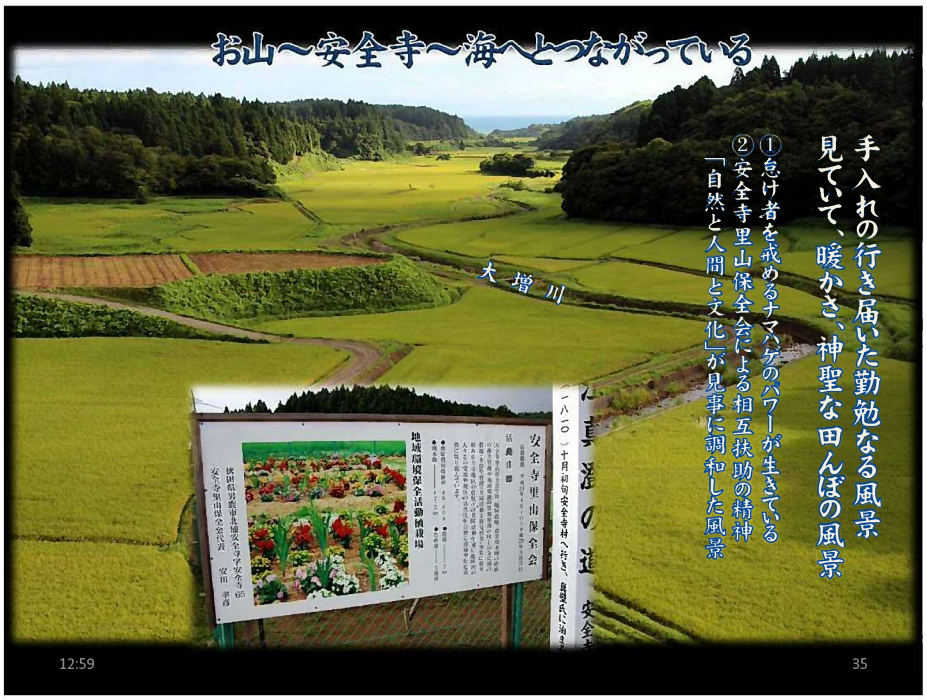
ナマハゲの郷・真山地区の農村風景その2

畦がきれいに草刈りされ、勤勉さがつたわってくる

12:59　32

本山(716m)　真山(571m)
『おがさべり 男鹿風景談』(柳田国男、昭和2年)
男鹿が鹿のいる島であったとともに、さらにまた正月十五日のナマハゲの故郷であったがゆえに、その天然に一段と深き懐かしさを覚えるのである。…
(ナマハゲは)、他の府県にあって多くは形式化し遊戯化したものを、ここには(略)その姿をもって、最近まで保存しておいてくれた。男鹿はこの意味において、ことに旅人のためには懐かしい昔の国である。
ナマハゲは、真山・本山の「おやま」からやってくる。
男鹿を代表する文化的風景
12:59
33


本山(716m)　真山(571m)
菅江真澄…1810年10月初め、再び安全寺村へ
「ここは昔安善寺という天台宗の寺があったといわれ、古い五倫石が、ところどころに転がっている。」
宗教民俗学・五来重「宗教歳時記」
『鬼面をつけて家々を訪れるなまはげは、ここの山伏が大晦日の宗教行事として演出し、これを民衆が祖霊来訪として受け容れたのである。』
安全寺
12:59
34


お山～安全寺～海へとつながっている
手入れの行き届いた勤勉なる風景
見ていて、暖かさ、神聖な田んぼの風景
①怠け者を戒めるナマハゲのパワーが生きている
②安全寺里山保全会による相互扶助の精神
「自然と人間と文化」が見事に調和した風景
大増川
安全寺里山保全会
地域環境保全活動栽培場
12:59
35

ご静聴ありがとうございました
①2013年 JRの大型観光キャンペーン秋田DC
②2014年 国民文化祭
③2020年 オリンピックは「東京」に決定!
こういう文化的な風景こそ観光文化振興の新しい目玉としてPRしてほしい
12:59
36